

川崎北部の水田雑草群落（春型）

吉田 三夫*

Weed of Paddy Field Community (Spring Type) in the Northern Region of Kawasaki City
Mituo YOSHIDA

I はじめに

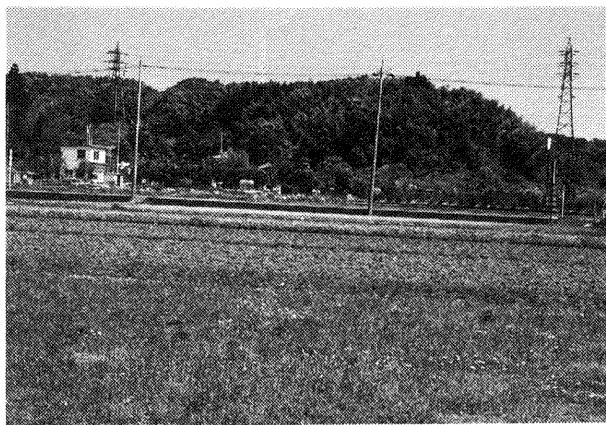
かつての川崎市の沖積地は、新田の開発が行われ、用水路が設けられて海岸近くまで水田として利用される一方、ナシ、イチヂクなども盛んに栽培されていた。しかし、明治末からの工業都市化により、東京湾ぞいの東京、川崎、横浜などに臨海工業地帯が形成され、現在では川崎北部に僅かに残っている緑、多摩丘陵地にまで住宅の波が押し寄せている。多摩丘陵は開析が進み、谷戸部が多く形成されている。この谷戸部に僅かに水田が残されている。早晚、これらの水田も無くなってしまうものと考えられる。そこで、植生調査を試みた。

II 調査地

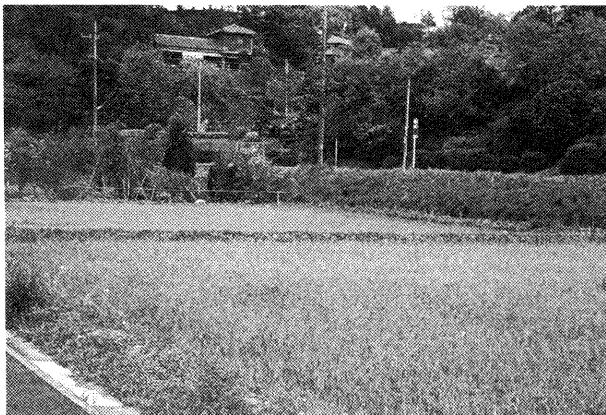
調査地は川崎市域の北部に当たる黒川、早野、岡上であり、いづれも多摩丘陵の谷戸部に当たるが、早野に関しては、谷戸部から離れた平地にも水田が僅かに広がり、川崎では珍しい地域である。

調査日は2000年4月29日に行った。各々の調査地域において任意に10ヶ所ずつ、合計30ヶ所から植生調査資料を得た。

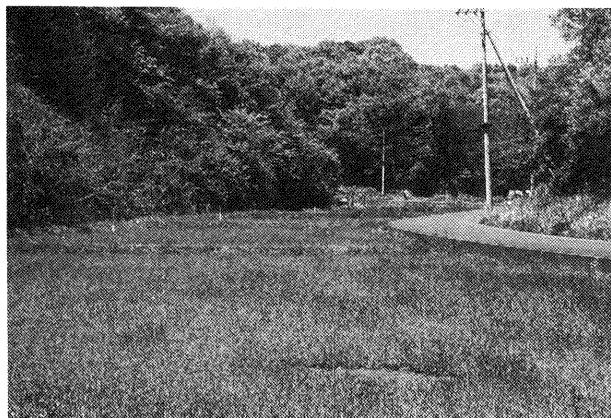
調査地の海拔高は黒川、早野、岡上各々、89、28、35m位である。



調査地 早野



調査地 岡上



調査地 黒川

III 調査方法

調査方法はBraun-Blanquet (1964) ほかによる植物社会学的手法によった。

水田雑草群落の植物社会学的研究によれば、宮脇・奥田 (1972) によって、ノミノフスマーケキツネノボタン群集と命名されている。(春型)。

IV 水田雑草群落（春型）の特性

水田は毎年5月、6月に耕作され、水が引かれる。春先から耕作されるまでの短期間に花を咲かせ結実し種子を散布させる植物群が水田雑草群落の構成種である。低地のいわばお花畠といえる。これらの植物の幾つかはイネと共に弥生時代に朝鮮または中国を経て日本に渡来し

* 川崎市青少年科学館

たもの、随伴種と言われている。史前帰化植物という見方もできる。耕作という人為的干渉がこの群落を持続させているのだろう。

水田の畦はミゾカクシーオオジシバリ群集と命名されているが、ミゾカクシとオオジシバリでは花期が違うので、特にオオジシバリが咲く4月ではミゾカクシを同定したい。また、イネが生育した夏の水田の雑草群落はウリカワーコナギ群集と命名されている。

V 調査結果と考察

黒川、早野、岡上の3地域で各々10ヵ所づつ合計30ヵ所を調べた総出現種数は54種であった。最も出現種数が少なかったのは黒川、岡上の10種であり、最も多かったのは岡上の21種であり、平均出現種数は15種という種数的には単純な雑草群落である。

高常在度で出現する植物にはコオニタビラコ（29回）、スズメノテッポウ（28回）、ノミノフスマ（27回）、ケキツネノボタン（25回）、スズメノカタビラ、ムラサキサギゴケ（23回）、カラスノエンドウ（22回）となっていて、これらの植物は川崎の春の水田では何処でも見れると言える。

群集標徴種の一つであるムシクサは神奈川県の調査より多いが、川崎では早野に専ら生育していることが分かった。

また、セトガヤだが、これは黒川のみに見られ、他の地域には生育していなかった。黒川の4調査地に見られたが、1ヵ所はセトガヤのみで、他の3ヵ所はスズメノテッポウと混生していた。

噛むと苦い味がするヤナギタデは早野の2調査地にのみ生育していたが、かつては黒川の谷戸奥の水田で見たことがあり、そこは現在では宅地の為に造成されてしまった。

水分の多い場所に生えるマツバイは、岡上の4調査地に見られたが、これらの水田は棚田になっており、水分条件に恵まれた立地であった。棚田は、川崎ではここだけになっており、その点では、貴重な場所といえる。

スズメノエンドウとカラスノエンドウの中間といわれるカスマグサは早野の3調査地に生えており、他の調査地では見られなかった。

下位単位区分種から、概ね次のことが言える。黒川では、クサヨシ、ナズナ、スイバ、セトガヤが見られ、早野では、ツメクサ、ヒメジョオン、カスマグサが見られ、岡上では特に典型的な植物は見られなかった。

VI 摘要

黒川、早野、岡上の各々10ヵ所づつ、合計30ヵ所から調査資料を得て検討した結果、概ねその地域の特性を示す植物を知ることができた。

4月下旬、春の水田雑草群落の観察をするなら黒川が一番いいと考える。



カズノコグサ
セトガヤ、ケキツネノボタン、ゲンゲ



ノミノフスマ



ムラサキサギゴケ

参考文献

宮脇 昭他 (1972) 神奈川県の現存植生 付表
神奈川県教育委員会 Tab 90

ノミノフスマーケキツネノボタン群集
Stellario-Ranunculetum cantoniensis Miyawaki et Okuda 1972